



2024 年度

事業報告書

学校法人 安田学園

Tel: 082-878-6321

〒731-0153

広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1

目次

法人の概要	3
建学の精神	3
設置する学校	4
所在地	5
沿革	5
学校組織図	7
事務組織図	8
設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	9
役員等の概要	10
事業の概要	13
安田女子大学・安田女子短期大学	13
安田女子中学・高等学校	21
安田小学校	24
安田幼稚園	29
安田幼稚園安東園舎	32
財務の概要	37
資金収支計算書の推移	37
事業活動収支計算書の推移	38
貸借対照表の推移	39
貸借対照表の関係比率の推移	40
事業活動収支計算書関係比率の推移	40
在学生数・教職員数の推移	40
財務の概要	41

法人の概要



建学の精神

学校法人安田学園は、「女子に教育は無用」とする風潮が強かった大正時代に、自ら女子教育の重要性と必要性を痛感し、「品格と教養を兼ね備えた女性を育てたい」と願った初代学園長安田リヨウにより開校されました。

建学の精神「柔しく剛く」は、「人間としての柔しさや徳性を身につけた人格を形成し、人間として剛い意志をもって社会に貢献することのできる、心身ともに健全な教養ある人間を育成する」ことをめざした安田リヨウの信念です。学園はこの創立以来の理念・教育方針を、世の中の変動に流されることなく長年守り続けてきました。

創立から110年、学園は数多の苦難と社会の変化を乗り越え、現在では幼稚園から大学院までを設置する「幼児教育から最高水準の教育を一貫して行える総合学園」として、地域社会から高い評価を得ています。

学校法人安田学園は、これからもしっかりと堅実に、柔しく剛い人材を社会に送り出してまいります。

設置する学校

学校名	学部・学科・専攻・課程	キャンパス
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース 博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻 薬学研究科 博士課程 薬学専攻 看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻 博士後期課程 看護学専攻	安東
	文学部 日本文学科 書道学科 英語英米文学科	
	教育学部 児童教育学科	
	心理学部 現代心理学科 ビジネス心理学科	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科 公共経営学科	
	家政学部 生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科	
	薬学部 薬学科	
	看護学部 看護学科	
安田女子短期大学	保育科	
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	
安田女子中学校		白島
安田小学校		
安田幼稚園		
安田幼稚園安東園舎		安東

所在地

安東キャンパス

〒731-0153 広島市安佐南区安東 6 丁目 13 番 1 号

白島キャンパス

〒730-0001 広島市中区白島北町 1 番 41 号

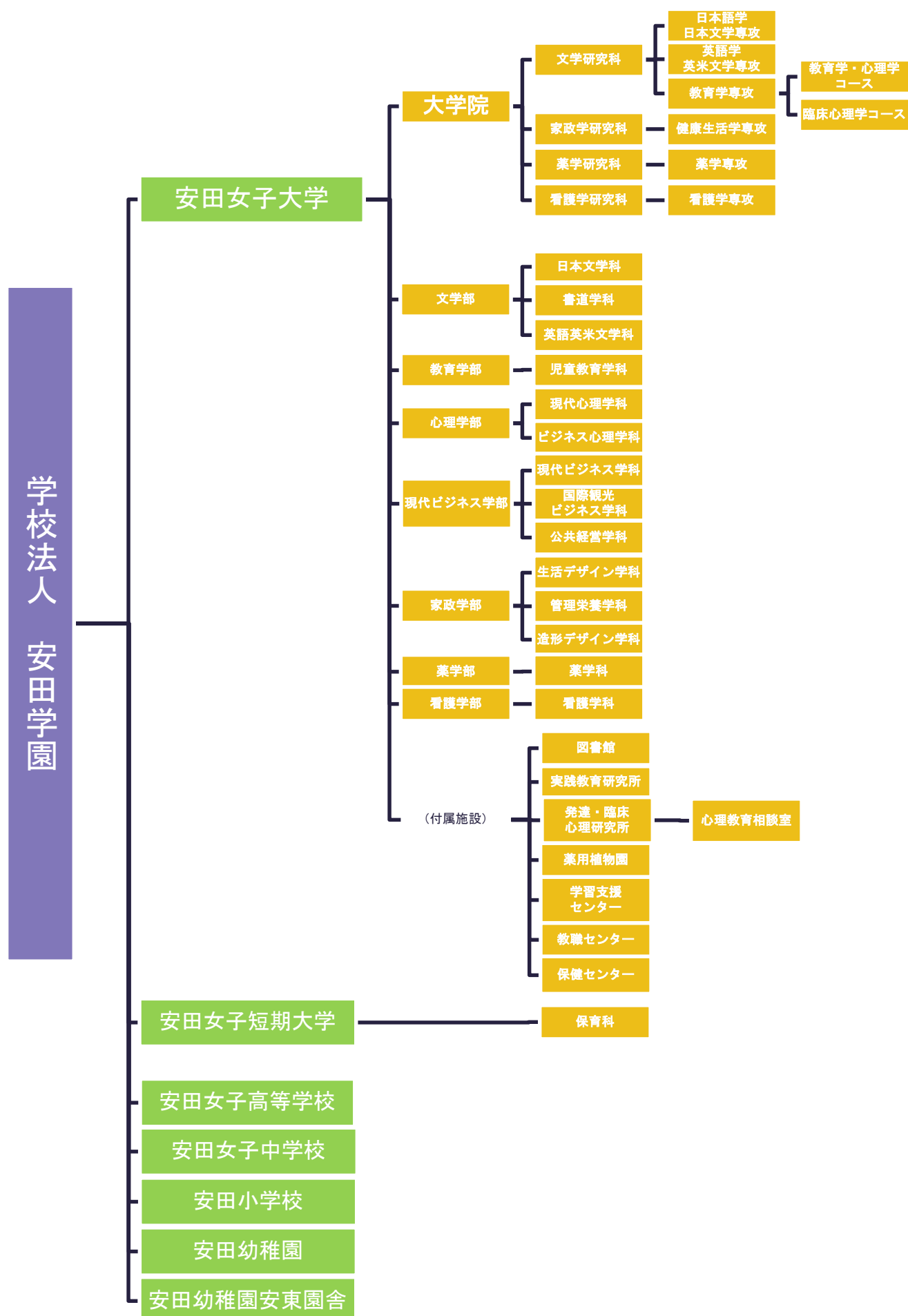
〒730-0002 広島市中区白島中町 2 番 25 号

沿革

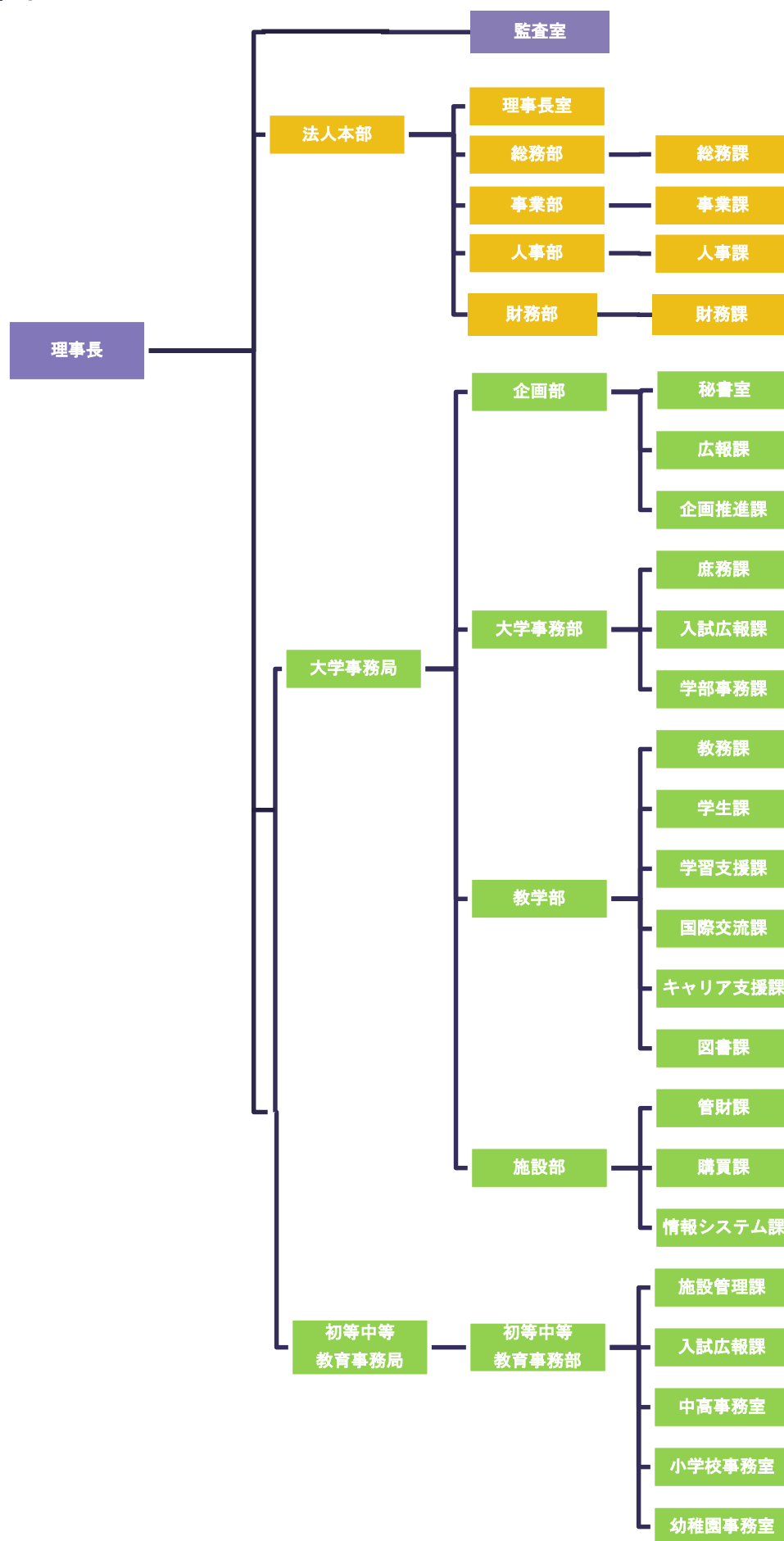
1915 年	1 月 4 月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける 各種学校令による広島技芸女学校開校（広島市中島本町）
1917 年	10 月	校地を広島市基町（現西白島町）に移す
1918 年	4 月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称 実業学校令による広島技芸女学校開校
1920 年	4 月	安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復称 広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
1922 年	4 月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
1927 年	8 月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称（1945 年 3 月まで）
1928 年	8 月	安田高等女学校を財団法人安田高等女学校に改組
1930 年	5 月	広島女子教員養成所開所
1944 年	3 月 5 月	広島女子教員養成所廃止 安田高等女学校内に保育所併設（1945 年 3 月まで）
1945 年	8 月 12 月	原子爆弾のため職員 13 名、生徒 315 名死亡 校舎全壊、終戦 校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年 1 月本格的復興工事開始
1946 年	4 月	安田高等女学校 5 年制となる
1947 年	4 月	学制改革により安田女子中学校を開校 広島 Y・D・M カレッジ開校
1948 年	5 月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
1951 年	3 月 4 月	学校法人安田学園へ組織を変更 広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校（1953 年 3 月まで）
1953 年	4 月 6 月	安田学園幼稚園教員養成所を設置 安田保育園（1952 年 5 月開園）を廃止し、安田幼稚園を開園
1955 年	4 月	安田女子短期大学保育科開学
1956 年	3 月 4 月	安田学園幼稚園教員養成所廃止 安田小学校開校 安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
1961 年	4 月	短期大学に家政科増設
1965 年	3 月	広島 Y・D・M カレッジ廃止
1966 年	4 月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学
1967 年	9 月	短期大学を白島校地より安東校地に移転
1975 年	4 月	大学文学部に児童教育学科増設
1981 年	4 月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園

1984 年	4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
1963 年	4 月	短期大学に秘書科増設
1991 年	4 月	短期大学家政科を生活科学科に名称変更
1994 年	4 月	大学に大学院文学研究科修士課程日本語学日本文学専攻、英語学英米文学専攻、教育学専攻設置
1996 年	4 月	大学院文学研究科に博士後期課程を設置
1998 年	4 月	大学文学部に人間科学科を増設
2002 年	4 月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の 2 専攻に分割
2003 年	4 月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を増設
2004 年	4 月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を増設 大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止 短期大学生生活科学科は学生募集停止
2005 年	3 月	短期大学生生活科学科を廃止
2007 年	4 月 9 月	大学に薬学部薬学科（6 年制）を増設 大学文学部人間科学科を廃止
2011 年	4 月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科 日本文学専攻は学生募集停止 大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書 道文化専攻は学生募集停止
2012 年	4 月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童 教育学科は学生募集停止 大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学 生募集停止
2013 年	4 月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を増設 大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を増設
2014 年	4 月	大学に看護学部看護学科を増設
2015 年	3 月 4 月	大学文学部児童教育学科を廃止 大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を増設 短期大学秘書科は学生募集停止
2016 年	3 月 4 月	短期大学秘書科を廃止 大学に家政学部造形デザイン学科を増設
2017 年	9 月	大学文学部心理学科を廃止
2018 年	4 月	大学心理学部心理学科を現代心理学科に改称 大学に心理学部ビジネス心理学科を増設 大学院に看護学研究科博士前期課程看護学専攻を増設 大学院に看護学研究科博士後期課程看護学専攻を増設
2020 年	4 月	安田女子短期大学附属幼稚園を安田幼稚園に改称 安田女子大学附属幼稚園を安田幼稚園安東園舎に改称 大学に現代ビジネス学部公共経営学科を増設

学校組織図



事務組織図



設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

2024 年 5 月 1 日現在

(単位：名)

学校	入学定員	編入学定員	収容定員	在学生数
安田女子大学				
大学院				
文学研究科				
博士前期課程	30	-	60	23
博士後期課程	9	-	27	2
家政学研究科				
修士課程	3	-	6	-
薬学研究科				
博士課程	2	-	8	1
看護学研究科				
博士前期課程	10	-	20	1
博士後期課程	3	-	9	2
大学院計	57	-	130	29
文学部				
日本文学科	90	1	362	346
書道学科	30	1	122	100
英語英米文学科	110	2	444	296
文学部計	230	4	928	742
教育学部				
児童教育学科	150	3	606	593
教育学部計	150	3	606	593
心理学部				
現代心理学科	90	1	332	337
ビジネス心理学科	60	1	242	229
心理学部計	150	2	574	566
現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	90	1	362	380
国際観光ビジネス学科	90	1	362	331
公共経営学科	60	1	242	186
現代ビジネス学部計	240	3	966	897
家政学部				
生活デザイン学科	160	2	614	617
管理栄養学科	120	-	480	474
造形デザイン学科	75	-	305	317
家政学部計	355	2	1,399	1,408
薬学部				
薬学科	100	4	632	590
薬学部計	100	4	632	590
看護学部				
看護学科	120	-	480	515
看護学部計	120	-	480	515
学部計	1,345	18	5,585	5,311
大学計	1,402	18	5,715	5,340
短期大学				
保育科	150	-	300	193
短期大学計	150	-	300	193
高等学校				
全日制課程 普通科	270	-	810	689
中学校	250	-	750	532
小学校	105	-	530	528
幼稚園	70	-	210	208
幼稚園安東園舎	70	-	210	210
学園合計			8,525	7,700

役員等の概要

(1) 役員

理事 9 名（理事長含む）

監事 2 名

2025 年 3 月 31 日現在

役員名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	担当する職務内容や期待する役割等
理事長	安田 馨	2024.5.25	常勤	学校法人安田学園 理事長
常務理事	栗栖 孝明	2023.11.11		安田女子大学・短期大学 学長補佐 事務局長
理事	瀬山 敏雄	2022.10.5		安田女子大学・短期大学 学長
	赤川 雅美	2024.4.1		安田女子中学高等学校 校長
	世羅田 慎治	2022.10.5		安田小学校 校長
	箱田 雅之	2025.3.15		安田女子大学・短期大学 大学教授 学部長補佐
	川畑 誠	2024.5.25		学校法人安田学園 法人本部 本部長
	山野 瑞枝	2024.5.25	非常勤	卒業生との連携
監事	大方 幸一郎	2024.5.25		外部情報の提供
	武井 康年	2024.10.14		業務、財産及び理事の業務執行の監査
	鳥居 聖	2025.3.15		業務、財産及び理事の業務執行の監査

(2) 評議員 25 名

2025 年 3 月 31 日現在

氏名	就任年月日	常勤・非常勤	学内での役職
安田 馨	2024.7.29	常勤	学校法人安田学園 理事長
瀬山 敏雄	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 学長
赤川 雅美	2024.7.29		安田女子中学高等学校 校長
世羅田 慎治	2024.7.29		安田小学校 校長
栗栖 孝明	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 事務局長
川畑 誠	2024.7.29		学校法人安田学園 法人本部 本部長
赤木 玲子	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
石田 泰隆	2024.7.29		安田女子中学高等学校 教諭
野間 佳恵	2024.7.29		安田幼稚園 園長
三上 留美	2024.7.29		安田幼稚園安東園舎 園長
小川 圭司	2024.7.29		学校法人安田学園 初等中等教育事務局 局長
佐藤 聡	2024.7.29		学校法人安田学園 法人本部 総務部 部長
谷 俊之	2024.7.29		学校法人安田学園 法人本部 事業部 部長
池田 智子	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
高口 圭轉	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
富永 一登	2024.7.29		安田女子大学・短期大学 大学教授 学部長
箱田 雅之	2025.3.15		安田女子大学・短期大学 大学教授 学部長補佐
瀬山 朋	2024.7.29		学校法人安田学園 法人本部 総務部 総務課
山野 瑞枝	2024.7.29	非常勤	—
鈴木 育江	2024.7.29		—
八反田 三千子	2024.7.29		—
藤田 香奈美	2024.7.29		—
本多 立憲	2024.7.29		—
大方 幸一郎	2024.7.29		—
宝嘉 正博	2024.7.29		—

(3) 責任限定契約及び役員賠償責任保険契約の状況

① 責任限定契約

私立学校法に従い、2020年10月5日から責任限定契約を締結しています。

A) 対象役員

非業務執行理事（山野 瑞枝、大方 幸一郎）、監事（武井 康年、鳥居 聖）

B) 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害について、学園に対し賠償する責任は、その職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律で定める額（以下、「最低責任限度額」という。）を上限に学園があらかじめ定めた額と、最低責任限度額とのいずれか高い額を責任限度額とします。

C) 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めています。

② 役員賠償責任保険制度

私立学校法に従い、理事会決議により2020年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入しています。

A) 団体契約者

日本私立大学協会

B) 被保険者

記名法人… 学校法人安田学園

個人被保険者… 理事長、理事、監事、および評議員

C) 補償内容

a. 役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

b. 記名法人に関する補償

法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

D) 支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

E) 保険期間中総支払限度額

5億円

(4) 教職員

2024年5月1日現在

区分	教員	事務職員	非常勤教員	兼務職員
大学	225	111	180	61
短期大学	12	4	8	4
高等学校	48	15	6	13
中学校	38	9	3	7
小学校	30	4	3	9
幼稚園	14	2	0	12
幼稚園安東園舎	12	2	0	13
その他	0	1	0	2
学園合計	379	148	200	121

事業の概要

当年度の主な事業

安田女子大学・安田女子短期大学



① 中期計画（2019 年度～2026 年度）の進捗・達成状況

- A. 教育の一層の充実を図ること及び普遍（不変）な事項と変化する事項への対応を目的に、大学の 3 つのポリシーの改定を行いました。併せて、2025 年度に開設する教育学部幼児教育学科及び理工学部 3 つのポリシーの策定を行いました。また、3 つのポリシーは公式ホームページで公表し、学生、教職員及び地域社会に周知しています。
- B. 自己点検・評価は本学の責任において恒常的に行い、質保証に努めることを目的とし、自己点検・評価委員会にて 3 つのポリシーに沿った適正な運用状況を検証しました。その後、F D 委員会で報告し、3 つのポリシーに沿った人材養成、教育の実施、入学生の確保がされていることを点検しました。また、アンケート検討委員会を立ち上げ、本学で実施している各種アンケート調査のより適切な実施に向けて実施方法や調査項目等の検討を行いました。
- C. 自然の道理を探究する「理学的視点」と、その知識をもとに独創的に応用する「工学的視点」を身につけ、急速な技術革新、自然と社会の共生、持続可能な社会の実現など、現代社会が抱える複雑な課題に自ら対応策を模索する人材を養成することを目的として日本初の女子大学としての理工学部（生物科学科、情報科学科、建築学科）の開設準備を行いました。また、生物科学科における食品衛生管理者・食品衛生監視員養成施設の登録申請、建築学科における建築士試験指定科目の確認申請の手続きを行い、各関係省庁からの登録・許可通知がありました。
- D. 教育学部児童教育学科と短期大学保育科で行ってきた幼稚園教諭、保育士養成を統合し、幼児教育・保育分野において未来をけん引する保育者等の専門的職業人を養成することを目的として幼児教育学科の開設準備を行いました。また、各関係省庁へ申請していた「幼稚園教諭一種免許状」の教職課程と「指定保育士養成施設」の指定が認可されました。
- E. 教育学部改組に伴い申請した文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団が実施する「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援事業／少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」において、対象大学として選定されまし

た。これにより、文部科学省からは5年間（2024年度～2028年度）にわたり継続的に支援されることとなりました。

F. 所定の要件を満たせば、5年間（学部4年＋大学院1年）で「学士」「修士」の学位及び小学校教諭専修免許状が取得できる児童教育学科の「学部・大学院5年一貫コース」において、導入された2021年度入学生が4年生となり、大学院の一部の科目を先行して履修し、単位を修得しました。次年度大学院に進学し、残り1年間で大学院修士課程修了に必要な単位を修得する予定です。

G. 2024年4月から、日本語教員が「登録日本語教員」として国家資格化されたことに伴い、本学で登録日本語教員の養成を行うため、登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関の申請書を関係省庁に提出しました。

H. 公式ホームページでの3つのポリシーの公表に加え、求める人材像を『入学試験ガイド』『入学試験要項』に記載し、入学前段階から理解を促しました。更に公式ホームページにおいて、受験者・志願者の動向を踏まえた記事の更新により、閲覧者・閲覧数ともに増加させました。また、新たに「学生広報アンバサダー」制度を設け、学生広報アンバサダーがオープンキャンパス等での企画運営やSNS等、学生目線での広報活動を積極的に行いました。

対面を基本とする学生募集活動を積極的に展開した一方で、遠方の高校における出張講義や高校内説明会においては、オンライン方式も活用しました。主な学生募集活動は、YASUDAキャンパスフェア（4月）、高校3年生・保護者対象入試相談会（6月）、高校教員対象説明会（6月）、オープンキャンパス（7・8月）、高校訪問（通年）、キャンパス見学（通年）、出張講義（通年）、高校内説明会（通年）等です。また、2024年度は、理工学部イベント「Rikoフェス！」を4月～9月で計8回開催し、理工学部開設に向けた広報を積極展開しました。入学試験では、総合型選抜（後期日程）における学外試験会場の設置、理工学部対象の専門高校特別選抜の新設と成長分野（理工転換）支援パスポート（Rikoパス）の導入、奨学金制度（薬学パスポート、Rikoパス）対象入試の専願合格者チャレンジ制度の導入、英語民間資格・検定のみなし得点制度の導入、一般選抜＋共通テスト利用選抜（高得点合算型）の新設など、近年の志願者動向とニーズをふまえ、多くの入試改革を実行し、志願者の確保に努めました。入学者選抜においては、厳正な実施と定員管理を行いました。

I. 教育の質保証の一環として、入学予定者が円滑に大学での学習を開始できるよう、全学部の入学予定者を対象に入学前学習プログラムを提供しました。併せて、理工学部においては、理数系科目における基礎学力の維持および向上を目的とし、AIを活用した個別学習プログラムを実施しました。受講した入学予定者からは、「高校の授業内容を復習することができた」「忘れていた単元や苦手な分野に取り組むことができた」といった声が寄せられており、一定の教育的効果が認められました。また、理工学部各学科の担当教員においては、入学予定者一人ひとりの学習状況を把握し、入学後の効果的な学習支援に向けた体制整備を行いました。

J. 電子データで効率的に出席状況を把握し、授業における出席確認の時間削減を図りました。更に複数の評価方法を併用して授業の到達目標に照らした学修の達成度を多様な観点から評価することをシラバスに示し、厳格かつ適正な評価を通じた単位認定を行うとともに、学科ごとのGPAの分析により成績分布の把握を行いました。また、全学生を対象に実施した「学生生活に関

する実態調査」集計結果を分析し、学科ごとの学修状況、学生生活について現状を把握し、大学運営に活かしました。これらの取り組みにより、多角的な教育の質の保証に努めました。

K. F D委員会、企画部企画推進課によるF D・S Dの企画・運営により、計画的かつ体系的な研修を行い、自己啓発を例年通り推進しました。特に新任教職員については、複数回研修を行い、本学園の建学の精神及び教育理念の浸透を図っています。また、本学では各学部・学科において活発にF D活動が展開されており、他学科のF D研修会を参考にF D活動のより一層の活性化を図ることを目的とし「学科F D通信」を作成しました。

② 学生の出身高校訪問

一人暮らしの1年生が夏休み中に帰省して、出身高校（母校）を訪問し、高校の先生に成長した姿を見せて学生生活を報告することを教育的な機会と考え、大学として支援しました。

38名の学生が出身高校を訪問し、約44万円を補助しました。

③ 朝食無料提供及び夕食半額補助

「学生食堂まほろば」では、朝食の無料提供を行っています。より多くの学生に毎日朝食を食べてから勉学に励んでほしい、朝食をとることで生活リズムを整えてほしいという思いで継続して支援しています。なお、夕食は通常400円のところ、半額補助を行っています。

④ 奨学金／留学生交流支援制度（短期派遣）

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に以下のプログラムが採択され、実施しました。

対象の海外留学プログラム参加学生で本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計104名に独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金4,138万円を給付しています。

【奨学金の対象プログラム】

- A. 英語英米文学科 アメリカ派遣5ヵ月留学（STAYS）2年生
- B. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2年生
- C. 児童教育学科 海外教育語学研修（SEEC）
- D. 看護学科 国際交流・実践（IEAP）
- E. 全学科 欧米文化語学演習（EACLP）

⑤ 奨学金／安田女子大学海外研修支援制度

対象の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、学生64名に対し、1,280万円を支援しています。（④の日本学生支援機構の奨学金との重複受給は不可）

【支援金の対象プログラム】

- A. 英語英米文学科 アメリカ派遣5ヵ月留学（STAYS）2年生
- B. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2年生

⑥ 教育ローン利息補給奨学金給付制度

本奨学金給付制度は、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。2024 年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、68 名に約 263 万円を給付しました。

⑦ 新入生歓迎行事

A. 新入生のためのクッキングセミナー

2024 年 4 月 15 日（月）、4 月 16 日（火）、4 月 18 日（木）、4 月 19 日（金）の 4 日間、新入生の自立を支援する企画のひとつとして開催しました。

初めての一人暮らしで自炊が不安な学生はもちろん、料理に関心がある学生から料理が苦手な学生まで、延べ 75 名の新入生が参加しました。

B. 一人暮らし支援イベント

2024 年 4 月 20 日（土）、5 月 30 日（木）、6 月 27 日（木）の 3 日間にわたって、一人暮らしの新入生に同郷の同級生、上級生、教職員との出会いの場を提供し、つながりをつくることで一人暮らしの不安を和らげ、順調な大学生活をスタートしてもらうことを目的として開催しました。延べ 118 名の新入生と上級生及び教職員が参加し、出身地域別・一人暮らしの住所ごとにテーブルを囲み、ゲームや歓談、食事を楽しみました。

C. オリエンテーションセミナー

オリエンテーションセミナー（通称：オリゼミ）は、1976 年から 48 年続いている本学の伝統行事です。2024 年度も下表のとおり、4 月から 5 月にかけて新入生を対象に、広島県江田島市または島根県大田市の研修施設で 2 泊 3 日の宿泊研修を実施しました。

日程	学科	研修先
2024 年 4 月 30 日～5 月 2 日	日本文学科 保育科	国立江田島 青少年交流の家
2024 年 5 月 6 日～5 月 8 日	児童教育学科 現代心理学科	
2024 年 5 月 8 日～5 月 10 日	ビジネス心理学科 薬学科	
2024 年 5 月 10 日～5 月 12 日	国際観光ビジネス学科 生活デザイン学科	
2024 年 5 月 6 日～5 月 8 日	現代ビジネス学科 管理栄養学科	国立三瓶 青少年交流の家
2024 年 5 月 8 日～5 月 10 日	書道学科 英語英米文学科 造形デザイン学科	
2024 年 5 月 10 日～5 月 12 日	公共経営学科 看護学科	

⑧ 学習支援

A. 課外講座

開講及び受講状況は、次のとおりです。

提供講座：29 講座 開講講座：26 講座 延べ受講者数：406 名

Microsoft Office Specialist（MOS）講座の検定料は、2022 年度から安田女子学大学後援会が一部補助しています。

B. ボランティア活動

57 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 88 名の学生が参加しました。

C. 各種検定試験

学内で申込みを受け付けている検定試験は、「Test of English for International Communication（以下、TOEIC®という。）」「日本漢字能力検定」「文部科学省後援 秘書技能検定（以下、秘書検定という。）」「日本商工会議所及び各地商工会議所主催簿記検定試験（以下、日商簿記検定という。）」です。秘書検定と日商簿記検定以外の検定は、学内で試験を実施しています。また、これらの検定試験の検定料は、安田女子大学後援会が一部補助しています。2024 年度における各検定試験の申込者数は、下表のとおりでした。

（単位：名）

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	留学向	合計
TOEIC®	-	319	95	282	293	57	1,046
日本漢字能力検定	2 級	10	17				27
	準 2 級	2	3				5
秘書検定	準 1 級	2	1	0			3
	2 級	40	31	26			97
	3 級	8	6	4			18
日商簿記検定	2 級	2	2	0			4
	3 級	29	17	15			61

D. 公務員勉強会

公務員勉強会には、1 年生から 6 年生まで 200 名が参加し、セミナールーム（A 棟 402 室）での自主勉強会及び個別指導を行いました。更に資格スクールにより学内で行われる 2024 年度受験者向けの直前講座（28 名受講）と 2025 年度受験者向けの通年講座（66 名受講）の 2 講座を開講しました。2024 年度卒業生の公務員就職決定者は、行政職 28 名、資格職（保健師・栄養士等）11 名、公安職（警察）7 名でした。

E. 海外研修プログラムの実施

外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施しています。2024 年度は以下のプログラムを実施しました。

- a. アメリカ/カナダ派遣 5ヵ月留学 (STAYS) 16 単位
対 象 : 大学文学部英語英米文学科 2 年生 (参加者 31 名)
期 間 : 2024 年 9 月 26 日～2025 年 1 月 31 日 (128 日間)
派遣先 : カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ)
- b. アメリカ/カナダ派遣 5ヵ月留学 (STAYS) 16 単位
対 象 : 大学文学部英語英米文学科 2 年生 (参加者 29 名)
期 間 : 2024 年 9 月 5 日～2025 年 1 月 10 日 (128 日間)
派遣先 : ピッツバーグ大学 (アメリカ)
- c. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program) 16 単位
対 象 : 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生 (参加者 42 名)
期 間 : 2024 年 8 月 18 日～2024 年 12 月 23 日 (128 日間) 前半グループ
派遣先 : ハワイ大学マノア校 (アメリカ)
- d. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program) 16 単位
対 象 : 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生 (参加者 42 名)
期 間 : 2025 年 3 月 3 日～2025 年 7 月 8 日 (128 日間) 後半グループ
派遣先 : ハワイ大学マノア校 (アメリカ)
- e. 児童教育学科海外教育語学研修 (SEEC) 2 単位
対 象 : 大学教育学部児童教育学科 1～3 年生 (参加者 14 名)
期 間 : 2025 年 3 月 1 日～2025 年 4 月 6 日 (37 日間)
派遣先 : ヴィクトリア大学 (カナダ)
- f. 看護学科国際交流・実践 (IEAP) 2 単位
対 象 : 大学看護学科 1～2 年生 (参加者 16 名)
期 間 : 2025 年 2 月 27 日～2025 年 4 月 3 日 (36 日間)
派遣先 : アルバータ大学 (カナダ)
- g. 欧米文化語学演習 (EACLP) (アイルランド) 2 単位
対 象 : 大学 1～3 年生 (薬学部は 5 年生まで)、短大 1 年生 (参加者 17 名)
期 間 : 2025 年 2 月 8 日～2025 年 3 月 16 日 (37 日間)
派遣先 : アイルランド国立大学ダブリン校 (アイルランド)
- h. 欧米文化語学演習 (EACLP) (カナダ) 2 単位
対 象 : 大学 1～3 年生 (薬学部は 5 年生まで)、短大 1 年生 (参加者 13 名)
期 間 : 2025 年 3 月 1 日～2025 年 4 月 6 日 (37 日間)
派遣先 : ヴィクトリア大学 (カナダ)
- i. 教育学部 学部・大学院 5 年一貫コース (アメリカ)
対 象 : 大学児童教育学科 4 年生 (参加者 2 名)
期 間 : 2024 年 9 月 26 日～2025 年 1 月 31 日 (128 日間)
派遣先 : カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ)

j. 書道学科書道台湾実地研修（台湾）

対 象： 大学書道学科 1～4 年生、その他（参加者 21 名）

期 間： 2025 年 2 月 12 日～2025 年 2 月 15 日（4 日間）

派遣先： 台湾

⑨ 就職活動支援

個別指導で学生一人ひとりの自立を支援し、積極的できめ細かいサポートを行った結果、大学の就職率は 99.5%（2023 年度比△0.2 ポイント）、短期大学の就職率は、13 年連続 100%となりました。

学内で開催する企業就職者向けの学内合同就職説明会では、参加企業数を前年度までの約 150 社から約 210 社まで増やしました。参加学生数も例年の約 450 名から約 600 名まで増え、就職活動が良い状態でスタートできています。

また、引き続き、Uターン就職及び首都圏等の県外で就職活動を行う学生に対しての旅費補助制度や、近隣県（山口県、島根県、愛媛県、岡山県、鳥取県、香川県）との就職支援に関する協定により県外就職の支援をしています。

⑩ 入学式

2024 年 4 月 3 日、本学体育館にて新入生を迎えて挙行了しました。2024 年度も、ご家族のみなさまにもご列席いただき、式典の様子は学内・学外へライブ配信・アーカイブ配信を行いました。また、入学式終了後には、学科・専攻別にガイダンスを実施しました。

⑪ 卒業式・修了式

2025 年 3 月 8 日、本学体育館にて挙行了しました。ご家族のみなさまにもご列席いただき、式典の様子は学内・学外へライブ配信・アーカイブ配信を行いました。

⑫ 保護者懇談会

2024 年 10 月 5 日、保護者の方々に来学いただき、教員との面談や施設見学を通し、本学の教育等に理解いただくことを目的に保護者懇談会を開催しました。学科別の説明会終了後は、希望者を対象に、チューターによる学生生活・学習・就職・進路に関する個別面談を行いました。

⑬ ピアノコンクールの開催

日頃のピアノ演奏の練習成果を発表する機会とし、あわせて音楽追求への意欲と意識の高揚を図ることを目的として本学の学生を対象に「第 5 回安田ピアノコンクール」を 12 月に開催しました。アドバンスト部門 84 名、連弾部門 8 組（16 名）、ビギナーズ部門 257 名、合計 353 名（2 部門出場含む）が出場し、各部門の最優秀賞、優秀賞、唐花特別賞に 1 名あるいは 1 組、3 部門あわせて 7 名を審査員特別賞として表彰しました。

⑭ フォトコンテストの開催

キャンパス内の施設、風景、大学生活などを撮影した写真を募る「第 14 回安田フォトコンテスト」を 7～10 月に開催しました。写真に加え、初めて動画作品も募集し、写真部門に 35 点、動画部門に 3 点、計 38 点の応募がありました。フォトコンテスト選考委員による審査を経て、両部門から最優秀賞各 1 点、写真部門では優秀賞 1 点、特別賞 1 点の作品が入賞しました。

⑮ 施設改修及び整備

A. まほろば館（講堂ホール）冷温水発生機更新

更新後 16 年が経過し、機能が低下した冷温水発生機を更新しました。これにより省エネルギー化を実現し、より快適な教育環境を提供することができました。

B. A 棟及び 9 号館西棟の LED 化

設置後 26 年（A 棟）及び 18 年（9 号館西棟）が経過した照明設備を、照度確保による環境改善、安全確保、省エネルギー化を目的として LED 化しました。

C. 8 号館教室設備整備

老朽化した 2 階～4 階の教室について、AV 設備及び什器の更新を行いました。AV 設備更新は授業のスムーズな進行に寄与し、同時に什器を整備することで教育効果を向上させることができました。

D. 新 2 号館建設工事

2025 年度の理工学部開設に向け、新棟建設工事に着手しました。理工学部の設置により、教育機関としての多様性と質の向上に寄与し、社会全体に貢献することを目指して、施設の整備を進めています。

E. A 棟 8 号館外壁タイル剥落防止対策工事

建設後 26 年が経過した A 棟の外壁について、赤外線および打診検査を行い、浮きやクラックなどの不具合がある部分の補修工事を行いました。これにより、タイルの落下による災害リスクを大幅に減少させることができました。

F. 無線 LAN ネットワークの更新

設置から 10 年以上が経過し、老朽化により性能と耐障害性が低下していた 8 号館及び 9 号館の無線 LAN ネットワークを更新しました。学生及び教職員のネットワーク利用が改善される他、一部の教室では授業でも無線によるネットワーク利用が可能となり、教育環境の向上も期待できます。

G. 事務系サーバの更新

2017 年度に導入した事務系サーバの更新を実施しました。本サーバは事務系システムの基幹機能（各種認証、共有フォルダ等）を担う他、キャンパスプランのデータベース機能も兼任しています。近年はデータの肥大化によりキャンパスプラン及びまほろばポータル処理負荷が増え、学生及び教職員のシステム利用に影響が出ていましたが、それらの改善が期待できます。

H. 証明書発行サービスの更新

2016 年度に導入した証明書発行サービスの更新を実施しました。これまでは学内に発行機を設置してサービスを提供していましたが、新たにクラウドシステムを採用し、全国のコンビニから 24

時間 365 日サービスを利用できるようになりました。その他、各種キャッシュレス支払いへの対応、卒業生への対応など、利用側（学生）、管理側（教職員）双方の利便性が向上しました。

安田女子中学・高等学校



① 教科連携による探究的な学習の取り組みと高大連携の推進

新しい学習指導要領では日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、自ら課題を設定し、その解決に向けて協働的に取り組むことが求められています。本校でもその流れを意識しつつ、総合的な探究の時間と教科との連携を図りながら、探究的な学習に取り組んでおり、12月には校内で全校生徒による探究発表会を行い、日頃の探究活動の成果を発表しています。

また、高大連携をより一層推進するため、高校2年生総合コースにはPBL（3単位）、3年生総合コースにはIBL（3～6時間）、高大連携講座（2単位）という学校設定科目を設定し、安田女子大学を中心に近隣大学との連携をより強化し、進路観育成の充実に努めています。

② 進路観育成と進路指導の取り組み

6年間を通して生徒が適切な進路選択と主体的学習を行い、自らの進路実現を可能にしているよう取り組んでいます。補習は学習段階によりレベル分けし、より適切で主体的な学習ができるよう配慮しています。また中学校入学時から卒業まで一貫した進路指導を行い、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みを進めています。

	「進路観の育成や進路指導」に関する主な取り組み
中学生	職業ガイダンス (さまざまな職業について話を聞き、生徒の職業観を拓ける取り組み)
高校1年生	学部・学科研究 進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加（広大・東大・京大等） 大学の出張講座受講 模擬授業 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
高校2年生	進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加（広大・東大・京大等） 大学の出張講座受講 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿

高校3年生	進路講演会 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
-------	--

③ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期留学などを通して異文化を体験し、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。2024 年度も夏休み中にニュージーランド・ダニーデンの姉妹校オタゴ女子高校への語学研修、また 12 月に台湾の姉妹校、国立蘭陽女子高級中学との交流を実施しています。

A. オタゴ女子高校への語学研修・留学

a. 夏期海外研修

期 間： 夏期約 3 週間 参加者：高校 1・2 年生 20 名

b. 2ヶ月留学

期 間： 2024 年 7 月 30 日～2024 年 10 月 2 日 参加者：2 名

c. ニュージーランド 3ヶ月留学受入（ホームステイ）

期 間： 2024 年 12 月 12 日～2025 年 2 月 12 日 参加者：2 名

B. 台湾の姉妹校国立蘭陽女子高級中学との交流

a. 国立蘭陽女子高級中学の生徒が来校

期 間： 2024 年 12 月 16 日～2024 年 12 月 18 日

* 2 泊のホームステイ含む 参加者：22 名

b. 国立蘭陽女子高級中学訪問

期 間： 2024 年 12 月 22 日～2024 年 12 月 26 日

* 2 泊のホームステイ含む 参加者：18 名

④ オンライン英会話の実施

英語において、書く、読む、聞く、話すの 4 技能が重要視される中で、特にスピーキングとリスニングの能力を高めることを目的に、中学 3 年生から高校 2 年生までを対象に Weblio オンライン英会話を実施しています。年 5～10 回を目処に授業（OC）内で実施し、英検合格者の増加に貢献しています。また英語を話すことへの心理的バリアを取り除く効果も実感できています。

⑤ アフタースクール・STEAM Lab

放課後の活動としてアフタースクールと STEAM Lab を開設しています。

アフタースクールでは、社会人、卒業生を招いてのミニ講演会などを行い、生徒の進路意識の向上、探究活動の深化に役立っています。

英検対策では Web 教材すららを活用しています。また 2022 年度から導入した放課後の有料学習サポート講座 YasudaPlus を継続して校内で展開しています。YasudaPlus を受講する生徒は、週に 1 度以上の学習会に参加して、校内に常駐する担当者と一緒に進捗管理を行いながら個々の学習レベルに応じた学習に取り組み、成果を上げています。

STEAM Lab では、生徒の創造する力、企画する力、表現する力などを高めることを目的に、プログラミング講座、外部団体と連携したイベント企画、スクールドッグプロジェクトなどを実施しました。学年の枠を超えて短期集中できるイベントも多く、生徒は試行錯誤の中から小さな成功と失敗を積み重ね、自己肯定感を高め、将来に対する自信を育んでいます。

⑥ ルールメイカー育成プロジェクト

2019 年度から 2022 年度まで経済産業省「未来の教室」事業「ルールメイカー育成プロジェクト」のモデル校として、生徒が主体となった校則の見直しを進めてきました。このプロジェクトは、対話的・民主的な合意形成のプロセスを経て、生徒たち自身が教員・保護者などと協働して校則やルールを見直し、より良いルールに変えていく取り組みです。

2023 年度からは生徒会（生活委員会）の活動として位置づけ、生徒や保護者にアンケートを実施し、校則の見直しや学校生活環境の改善について学校と対話をしながら取り組みを進めています。

⑦ 体育祭

6 月に、広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）を会場に中学生・高校生合同で開催し、多くの保護者の方々にも来場いただきました。

⑧ 教員研修の充実

新しい学習指導要領では、日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、生徒が主体的に学習活動に取り組むように指導することが求められています。そのため本校においても、生徒が主体的・探究的に授業に取り組むことができるよう、授業互見週間を設定し、I C T 機器の活用や協働的な授業の取り組みなどを中心に公開・研究授業を推進しました。

⑨ 牛田総合グラウンド・白島グラウンドの活用

人工芝の白島グラウンドは、体育の授業で有効活用されています。牛田総合グラウンドは、日常の体育の授業はもとより、放課後の部活動においても日々活用しており、各種大会での好成績につながっています。

⑩ 安田リョウ記念講堂の活用

2022 年に完成した安田リョウ記念講堂では、入学式や卒業式などの式典、文化祭や合唱コンクールなどの行事を行っています。

1 階の食堂では、4 種類のランチの他に焼きたてパンやサイドメニューの販売も行い、連日多くの生徒が利用しています。

⑪ 施設・設備改修整備

A. 校舎の活用

a. 日本文化体験を目的とした教室

52 畳の広さがある 3 階和室では、茶道などの日本文化を体験する授業を行っています。半分に仕切って利用することも可能で、授業だけでなく課外授業（茶道、箏曲）でも活用し、小学校など白島キャンパス全体で利用しています。

b. 換気設備

校舎に 24 時間換気設備が導入され、1 時間あたり平均 4.2 回の空気入れ替えを行っています。この設備により、感染症対策や二酸化炭素濃度の低下を実現しています。

c. その他設備の設置等

6 階ホールにオーダーメイドの半円ベンチ、変形 L 型ベンチを設置したほか、屋上には 18 脚のレイジアナベンチをバランスよく配置しています。ともに生徒たちの憩いの場となっています。開放的な学習スペースに置くことで、明るく心地良い空間となっています。

B. 生徒への iPad 配布等 I C T 機器の整備

校内の Wi-Fi 環境を整備し、中学生、高校生ともに生徒 1 人に 1 台の iPad を貸与することで、I C Tを活用した学力の向上、情報の共有化に努めています。

授業での活用	ロイロノートを活用した協働的な授業、課題の配信 Google Form を活用したアンケートの実施
情報の共有化	Google classroom を活用した学校、学年、クラス内での情報の提供
その他の活用	スタディーサプリを活用したアダプティブラーニング（高校）

安田小学校



① 教師力を高める研修（学力と品格を高める安田の教育をめざして）

A. 授業力向上

教員の授業力向上をめざし、「自ら学ぶ力を育てる授業の創造」を研究テーマに授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームを作り、全員が研究授業を公開し、その後、研究協議会で意見交換を行いました。特に、研究授業を行ったことにより、子どもの思考力を高めることにつながったことは大きな成果でした。また、毎週金曜日の放課後に、教員間で授業について自由に話せる場を持ち、日々の教材研究に力が入り、個々のレベルアップにつながりました。

B. しつけ教育指導力向上

しつけ教育の重点目標のふり返りを行いました。全体での意識統一を図ることができ、児童への指導および学級経営に活かすことができました。

C. 校舎を活用した教育活動

6年生理科の授業では、1階くすのき広場において広いスペースを利用した火山の噴火モデル実験、5年生理科の授業では、吹き抜けで10mの振り子実験を行いました。また、4年生は11月に、回廊にコースを設置して視覚障がい者歩行体験を行うなど、校舎の空間を新しい学びの場として活用した教育を実践しています。6年生の卒業前には、各階の吹き抜けに全児童が集まり、1階の6年生に紙吹雪を撒いてお祝いしました。

また、音楽朝会を11月26日と3月11日に吹き抜けで開催しました。6年生が1階で演奏するピアノに合わせて各フロアの児童が合唱し、一体感のある時間を過ごすことができました。

② 一貫校としての取り組み

A. 幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」を活用し、2年生は6月に、安田幼稚園安東園舎の年長園児と「おもちゃまつり」で交流しました。4年生は10月に、安田幼稚園の年長園児とリモートで読書交流「おはなし広場」を実施しました。また、1年生は11月に、安田幼稚園の年中園児と「あそびのひろば」で交流しました。

B. 中学高等学校・小学校の連携

中学・高等学校の教員間で研究授業に相互参加し、情報交換をしました。

C. 大学・小学校の連携

12月に5年生全員で安東キャンパスの施設見学・授業体験を行い、2月には同じく5年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室を実施しました。

③ 保護者との連携

年8回、保護者会パパ倶楽部の方が毎回20名前後來校され、朝のあいさつ運動（ハロープロジェクト）を実施しました。この他にも、1年生および2年生の茶道教室におけるお茶の準備や片付け、11月は子どもまつりでのゲーム運営などで児童を楽しませていただきました。運動会では、テントの設営・撤収、当日の運営をお手伝いいただきました。

④ 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。

図書の時間には、「ブックトーク」「ストーリーテリング」「パネルシアター」「読み合い」「アニメーション」「読書会」などの読書指導や、「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を行いました。図書資料とICTを併用した調べ学習や、くすのきラボや「たたみコーナー」などの開放的な空間を活用した、教室とは違う雰囲気での定期的な読み聞かせも行いました。また、「リーディング・ビジット」「読書郵便」「親子読書」「朝の10分間読書」「読書祭り」「英語の絵本の読み聞かせ」等をとおして、図書館教育の充実に取り組みました。

⑤ しつけ指導

『安田式しつけ教育』（書籍）に基づき、第2章「学校のしつけ」と第3章「授業のしつけ」についてカリキュラムを作成し、全学年で計画的にしつけ教育に取り組みました。第1章「家庭のしつけ」では保護者の方のご協力のもとで取り組みました。

⑥ 安全指導・安全対策

A. 登校・下校指導

1年生と2年生を対象に、4月に交通安全教室を行いました。また、土曜日や学校行事での下校時に教員が学校の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導を行いました。

B. 下校方面別指導

4月と12月の年2回、全学年一斉に下校方面別の話し合いの場を設け、「危険な箇所」や「子ども110番の家」の確認をするなど、登下校でのマナー向上と危険回避能力の向上を図りました。

C. 防災訓練

4月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を5月と2月の年2回実施しました。

⑦ 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

A. 体験活動

- a. 4年（12月）、5年（1月）スケート教室：広島ビッグウェーブ
- b. 6年 スノーボード教室（2月）：めがひらスキー場

B. 宿泊学習

- a. 3年 山の学習1：由宇ふれあいパーク 5月30日から1泊2日
- b. 4年 山の学習2：帝釈峡 6月12日から2泊3日
- c. 5年 Global English Camp：ツネイシしまなみビレッジ 6月12日から1泊2日
- d. 5年 まほろば学習：京都での日本の伝統文化体験学習 10月28日から2泊3日
- e. 6年 山の学習3：島根県三瓶山一帯 6月12日から2泊3日

C. 鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」というテーマのもと、児童に本物の芸術を体験させ、豊かな情操を養い、芸術を愛する心を育むことを目的として内容を選定し実施しました。

a. 鑑賞会

全学年が11月に劇団四季のキャッツ鑑賞会を行いました。

b. 特別授業

6年生は12月に広島東法人会による「租税教室」の学習をしました。

⑧ グローバル人材育成プロジェクト

グローバル人材育成プロジェクトの一環として、以下の活動を行いました。

A. 姉妹校との交流学習

1年生と2年生は、12月にレディーマー・ルーザラン小学校の2年生からクリスマスカードを受け取り、そのお返しに安田小学校から年賀状を送り、姉妹校との交流を深めました。

3年生は、決められたパートナーとビデオ通話で交信し自己紹介をしました。4年生は、5月にレディーマー・ルーザラン小学校の4年生から日本語で書かれた手紙を受け取り、安田小学校からは英語で手紙を送りました。これは、安田とレディーマー・ルーザランの児童のペア活動としての取り組みです。

5年生は、お互いが質問状を送り、その返答をビデオ通話で行いました。

B. その他の国際理解学習

1年生は、ハロウィンパーティー、2年生はイースター学習をととして英語圏の文化を体験しました。

3年生は、学園のネイティブ英語教師に、もみじまんじゅうやお好み焼き、宮島や平和公園など広島について英語で伝え、ネイティブ教師からは出身の国や地方について教えてもらう授業を行いました。

4年生は、ギニアの方から文化や習慣について学び、その方が演奏する民族音楽の太鼓や歌を聴き、手作りのマラカスを使って一緒に演奏しました。

5年生は、宿泊学習の一環として Global English Camp を行いました。文化や習慣の異なる国の人と日本人の間に誤解や摩擦が起こった想定のもと、それを解決する短劇の脚本作成、ビデオ撮影と発表会を行いました。またワークショップとして非英語圏を含む国（メキシコ、中国、韓国、南アフリカ）の文化体験をしました。

6年生は、平和学習の一環として平和のためにできることを考えた上で、社会科の授業で、国際問題を解決するための国連とN G Oの働きを学び、自分には何ができるかを考えました。また、アメリカ人の有識者を招き、外国人から見た広島の問題を平和的に解決する考え方について、聞く機会を設けました。

C. 英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に English Day Camp を実施し、夏休みには4年生、冬休みには3年生が約50名参加しました。

英語の授業を、1年生週3時間(年間102時間)、2年生週2.5時間(年間90時間)、3～6年生週2時間(年間70時間)実施しました。英語スピーチコンテストを開催し、英語を話す場に向けてモチベーションを上げて取り組むことができました。また、英語専任教師4名を配置し、少人数授業やT T 授業など様々な形態で学習しました。

オーストラリア・アデレード郊外のレディーマー・ルーザラン小学校との海外研修（4・5年生希望者対象/26名参加）を3月21日から4月2日の13日間実施し、交流を深めました。

⑨ 保護者支援

A. 食堂での給食

食堂での給食を実施しています。弁当作りの負担がなくなったこと、冬場でも温かい食事が食べられることに多くの保護者から喜びの声が寄せられています。

B. 携帯電話の持たせ方

携帯電話所持に関する届出制のルールについて保護者への理解を図りました。

C. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを配置しました。複数の保護者が継続的に利用されました。

D. アフタースクール

放課後の預かりとして「ホームクラス」では宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語、そろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培う「スタディコース」を18コース展開しており、フットサル、ミニバスケットボール、キッズダンスといった運動系の講座が人気を集めています。新たに開講した英会話教室も、着実に受講児童を集めています。ホームクラスとスタディコースを併用することで最長19時までの放課後預かりが可能となりました。年々利用が拡大し、全家庭の8割が利用登録しています。

E. 「れんらくアプリ」の運用

小学校からの緊急連絡を始め、遅刻・欠席の連絡、各種アンケートの実施など、家庭と小学校との緊密な情報交換を目的として、「れんらくアプリ」を運用しています。

⑩ 児童募集

A. 学校公開 week

6月24日（月）～29日（土）、本校の教育に興味を持たれている方を対象として「学校公開 week」を実施し、授業参観をすべてのクラスで行いました。

B. 入試説明会

9月7日（土）に入試説明会を実施し、学校紹介と入試制度の説明を行いました。

C. 親子面接と園児テスト（入学試験）

11月8日（金）9（土）

D. オープンスクール

園児とその保護者が学校や教育を知る機会とし、安田小学校に通いたいというイメージをもってもらえるよう2月15（土）に授業体験を実施しました。

E. 「Instagram」の開設

小学校の活動状況やイベント情報について、園児とその保護者に対しリアルタイムに伝えることによって関係性を深めることを目的としてInstagramを開設しました。

安田幼稚園



① 保育研究活動

A. 重点目標と学校評価

今年度の重点目標を4つの柱を通して「やさしい心たくましい力」の育成と決めました。各柱には自己評価の視点として、①心通うあいさつは「片付け」、②自然とのかかわりは「身近な生き物への親しみ」、③友達いっぱい「戸外での運動遊び」、④おはなし広場は「話を聞く力」に設定し、指導に努めました。

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 99%）で各項目とも4段階評価で3.4～3.9、自園評価でも3.3～4.0となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度に繋げていきます。

B. 職員研修

6月から1月にかけて、各担任が研究テーマを掲げて研究保育を実施しました。互いの保育を見合い、指導技術の向上、より深い幼児理解に努めました。また、若手教員の育成と保育の質の向上をめざして、ベテラン教員の保育を年間10回程度参観し、互いの指導力を高めました。学内とは別に夏季休暇などを利用し、学外研修やリモート研修にも数多く参加しました。

② 読書活動の充実

A. おはなし広場

園長による読み聞かせ「おはなし広場」を20年継続して行っています。年間開催回数は93回、題材とした絵本95冊、紙芝居88冊で、学年ごとに実施しました。プロジェクターと教材提示装置を使用することで大画面での読み聞かせが可能となり、園児が物語の世界に引き込まれる時間となっています。また、各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れています。

B. 絵本の貸し出し

本園の読書活動については保護者の方にも浸透し、家庭での絵本の読み聞かせにも協力的です。借りた絵本の題名や作者、子どもの感想などを毎回記録する「絵本カード」は、園・保護者とのコミュニケーションツールとしても活用しています。

今年度は、夏休みにも絵本の貸し出しを実施し、のべ117組の親子の利用がありました。

③ 自然体験

安佐南区にある学園の農園等を活用し、四季折々の作物の苗植えや収穫の体験をしています。収穫したジャガイモや玉ねぎを使ってカレーパーティー、もち米での餅つき、さつまいもでの焼き芋パーティーを実施しました。これらの活動を通して食への関心を深め、自然の恵みや管理してくださる方々への感謝の気持ちを育んでいます。

また、今年度もフラワーフェスティバルに飾る花を育てる「ピースフラワープロジェクト花育」に参加し、3月初旬からペチュニアの花の苗を育てました。

④ 英語教育の充実

英語に親しめる幼稚園をめざして、英語教育に力を入れました。小学校・中学高等学校からネイティブの英語教諭に週4日来園してもらい、絵本の読み聞かせや運動遊び、カード遊びなどを通して英語に触れる機会を作りました。4・5歳児は週に1回、ECCの正課レッスンを受けることで英語力の向上を図りました。また、3歳児も週に1回、小学校のネイティブの英語教諭による「イングリッシュタイム」を実施し、絵本の読み聞かせや、歌やダンスをとおして英語に親しむ機会を設けています。日常の保育の中でも、朝の会や帰りの会では、英語に触れる機会を多く持ちました。年長児の大半が年齢や名前・天気などは、簡単な英語で受け答えができます。6月・11月・2月には、ハローウィークを実施し、英語で朝や帰りの挨拶を行いました。

⑤ 一貫校としての取り組み

A. 小学生との交流

10月24日、安田小学校の4年生が、年長組をおはなし広場に招待してくれました。おはなし広場では、小学生と一緒に手遊びをしたり、パネルシアターを見せてもらったり、絵本の読み聞かせをもらったりして楽しい時間を過ごしました。また、11月21日、年中組が安田小学校の1年生と交流会を持ちました。1年生が用意してくれたトントン相撲やすごろくと一緒に遊んでもらい、笑顔いっぱいの年中組でした。小学生との交流体験は、就学の期待につながり、相互に思いを寄せ合う意義ある体験になっています。

B. 高校生との交流

夏休みの預かり保育の手伝いに、幼児教育に関心のある安田女子中学高等学校の5・6年生（高校2・3年生）が来園しました。高校生は、園で子ども達とかわかって夢が膨らみ、将来の自分を想像することに繋がっている様子で、園児にとっても高校生にとっても職員にとっても意義ある体験となっています。同じキャンパス内だからこそ密な交流ができます。

C. 小学校長による教育講話

7月8日、安田小学校校長を招いて教育講話を開催しました。安田小学校の教育内容と安田幼稚園からの内部進学、特別選抜（専願）について話されました。進学を考えている保護者の方にとっては、安田小学校の教育を理解する良い機会となりました。

⑥ 防犯・安全（避難訓練）

園では、非常時に備え全園児で訓練を重ねています。不審者想定を年 2 回、地震想定を年 4 回（内 2 回は津波想定と預かり保育時想定）、火事想定を年 3 回実施しました。園児に危機管理意識を高めてもらうため園バスの訓練も実施しています。訓練では、置き去りにされたときの対処法として「窓を開ける方法を知る」「大きな声を出して助けを呼ぶ」「クラクションを鳴らす」3 つのことを学びました。

また、3 月に監視カメラを 2 台増設し（全部で 12 台）、防犯・安全対策の強化を図りました。

⑦ 子育て支援の充実

A. 預かり保育

預かり保育の利用は、開園日数は昨年度と同様でしたが、利用者数は若干増加しました。長期休業中の預かり保育の利用児は増加傾向にあり、19%増加しました。課外教室の参加が多い水曜日は、預かり保育の利用者が 100 名を超える日があり、最高 107 名の利用がありました。その他の曜日も 70～80 名の利用があります。共働きのご家庭の利用は 56%で、昨年度の 58%に比べてほぼ横ばいでした。共働きのご家庭にとって、安心して預けることのできる場所としてさらなる充実を図ってまいります。

<時間帯別内訳>

※人数はのべ数・（）は伸び率

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
早朝預かり	5,472 名 (△3%)	6,094 名 (+11%)	6,125 名 (+1%)
通常預かり	11,791 名 (△4%)	13,669 名 (+16%)	14,203 名 (+4%)
延長預かり (17-19 時)	6,101 名 (△7%)	6,946 名 (+14%)	7,007 名 (+1%)
開園日の利用者総数	12,915 名 (△+0%)	14,772 名 (+14%)	15,297 名 (+4%)
長期休業中の預かり	2,208 名 (△6%)	2,601 名 (+18%)	3,089 名 (+19%)

B. 課外教室

昨年度までの英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの 6 つの課外教室に加え、キッズダンスを実施しました。好きな課外教室が選べ、通常保育後に慣れた場所のできることから共働きのご家庭の園児も参加しやすく、複数の課外教室を利用する園児が増えています。年長しか利用できない硬筆教室は抽選になるほど大人気です。

今年度は、夏休み限定の絵画教室も実施しました（全 4 回）。年中組 18 名、年長組 17 名が参加しました。

C. 親子登園・園開放・園庭開放

今年度から、乳幼児とその保護者が気軽に集い交流できる場所として 0、1 歳児を対象としたオープンスペースを実施しました。また、これまでと同様、未就園児親子に遊びの場を提供し園生

活を知っていただくことを目的とした親子登園、園開放、園庭開放も実施し、地域の子育て支援センターとしての役割を担いました。年間の実施状況は下記の通りです。

行事名	対象	実施回数	参加状況 * () は前年度
親子登園	2 歳児	56 回	のべ 464 組 (58 回・525 組)
休園日の園開放	2 歳児	2 回	81 組 (2 回・93 組)
開園日の園開放	1 歳児～	2 回	45 組 (2 回・53 組)
園庭開放	1 歳児～	10 回	205 組 (10 回・310 組)
個別見学会	2 歳児	7 回	32 組 (11 回・46 組)
オープンスペース	0、1 歳児	10 回	89 組
園行事への参加	2 歳児	2 回	29 組

⑧ ICT環境の整備

教師用タブレットを 10 台、園児用タブレットを 20 台、日々の保育の中で使用しました。年長組は、思考力を楽しく身に付けるための知育アプリ「シンクシンク」に取り組んだり、調べ学習に使用したりしました。また、教師用タブレットと電子黒板を接続して映像や音楽を流す回数が増え、英語教育の推進にも役立っています。

⑨ 給食

学園の食堂で作られた給食は小学校を経由して幼稚園まで運ばれます。喫食場所は幼稚園 3 階アフタースクールの教室です。温かくて美味しい給食は栄養価も高く、食べる楽しさを演出してくれています。毎日違うメニューが提供され、子どもたちにとって楽しい時間となっています。6 月と 10 月に実施した保護者試食会では、子どもたちに人気のメニューを食べていただき、給食の良さを実感していただく機会となりました。

7 月の宿泊学習「お泊り保育」では、年長組が食堂を利用しました。普段と違う場所での喫食、特別メニューを喜んでいました。

安田幼稚園安東園舎



① 保育・研究活動

A. 重点目標と学校評価

a. 重点目標と重点項目の策定

子どもたちが園にある環境に主体的に取り組むために、教師のかかわり方や園にある環境のさらなる活用のあり方を積極的に考えていきたいという思いから、今年度の教育における重点目標を「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える～」に設定しました。

本園の3つの教育の柱「自分が好き」「友達が好き」「自然が好き」から、各学年でめざす子ども像や具体的に取り組む事項を1項目ずつ重点項目として定めています。今年度は以下のとおり設定し、指導に努めました。

「自分が好き」…「挨拶」について

「友達が好き」…「友達との関わり」について

「自然が好き」…「戸外で遊ぶ」について

b. 取組結果に対する学校評価

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 99%）で各項目とも4段階評価で3.9～4.0、自園評価でも3.0～4.0となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度につなげていきます。

B. 子ども理解と園内研修の充実

今年度も担任が、自然やクラスでの話し合い（サークルタイム）、挨拶など研究テーマを決めて研究保育や日々の保育、子ども理解について話し合いを重ねてきました。年度末には、全教員の研修を冊子にまとめました。

また、併設大学の学生の卒論研究と並行して、学生による子どもの行動観察やアンケートに協力しました。いろいろな見地からの観察とアドバイスをとおして子ども理解を深め、教師による援助のあり方を考え、日々の実践につなげています。

② 図書教育の推進

A. 絵本の貸し出し

1週間に1回の絵本貸し出しを継続しています。家庭での読み聞かせの時間を作り、親子で1冊の絵本の楽しさを共有することが、毎日の家庭生活の中に根付いてきていることを感じています。園の蔵書を充実させ、家庭との連携を図る「絵本ノート」を活用しながら、今後も読書活動を推進していきます。

B. 「お話しタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を継続し、子どもの情操を豊かにし、聞く態度とともに聞く力の形成につなげています。

③ 自然体験

本園は自然環境に恵まれており、年間をとおして学園の農園での収穫体験ができます。管理してくださる方々の力を借り田植えをし、もち米を育て、収穫して餅つきを行い、食すという一連の体

験は貴重です。野菜を植え育てるという活動も取り入れ、自分たちで育てた野菜の生長やそれを食することの喜びを味わいました。また、探索道で自然物収集やロープのぼり・芝すべりを楽しみました。

2024 年度も、子どもたちが園で育てた花を広島フラワーフェスティバルの会場に飾る「ピースフラワープロジェクト」に参加しました。花を育てることから優しい気持ちや平和な世界への願いにつなげてほしいと思っています。

④ ひろしま自然保育認証園に認証

本園の自然環境の良さや、その環境を取り入れた自然保育を実施していることについて、2024 年 12 月 27 日に広島県より「ひろしま自然認証園」として認証されました。本園の環境の良さや自然活動が認められたことで、より世間一般に広報できるようになりました。教職員一同、より、一層、自然活動についての学びを深め、充実した自然保育を子どもたちに提供していきたいと考えています。

⑤ 一貫校としての取り組み

A. 大学生の卒論研究への協力

毎年、併設大学・短大の教育者を志す学生の卒論研究のための保護者アンケート、教員アンケート等への協力をしています。

B. 大学の施設を利用した体験

大学教員の指導のもと、年長組全員の陶芸体験を実施しています。粘土をこね、皿などを作り、柄をつけ、焼き上がった作品を手にするのは、貴重な体験となっています。

また、年長組のお泊り保育の際に大学図書館で絵本を借りています。大学 9 号館にある天文台では、年長組親子全員対象に「親子で星を見る会」を実施しました。

さらに、短大の学生による「安田こども劇場」の発表を鑑賞し、子ども達の楽しい行事となっています。12 月には、管理栄養学科主催の年長組対象の「食育ピザパーティ」を実施し、保護者にも大好評でした。

C. 安田小学校校長による子育て講演会の開催

7 月に安田小学校校長による、「言葉で心を育てる」と題した「子育て講演会」を開催し、約 33 名の参加がありました。幼児期に大切にしなければいけないことについてお話しくださり、家庭での会話の重要性を改めて感じました。

⑥ 在園児子育て支援について

A. 預かり保育の充実

保育時間前後の預かり保育として、早朝保育や延長保育を大学・短大の施設“Sophia”で継続しています。今年度は通常保育と長期休業中を合わせ 230 日実施し、延べ人数 12,673 名（前年度 10,061 名）と多くの利用がありました。

＜時間帯別内訳＞

※人数はのべ数・（）は1日平均

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
早朝預かり	2,000 名 (10.7 名)	3,052 名 (16.2 名)	5,121 名 (22.3 名)
通常預かり	6,524 名 (34.9 名)	8,403 名 (44.7 名)	10,586 名 (56.3 名)
延長預かり (17-19 時)	1,276 名 (6.8 名)	1,984 名 (10.6 名)	4,015 名 (17.5 名)
長期休業中の預かり	1,526 名 (36.3 名)	1,647 名 (42.2 名)	2,085 名 (50.9 名)

B. 課外教室の充実

保育終了後の課外教室が6教室あり（英語・硬筆・絵画・サッカー運動遊び・ダンス・体操）選択肢があり、子どもたちの楽しみと励みになり、自信につながっています。

⑦ 未就園児子育て支援について

今年度も2歳児親子登園を9月まで実施し、入園を希望する方々に体験の機会を提供し、また、地域の子育て支援にも貢献しました。9月に実施した新規親子登園では、1回コースを4グループ実施し、延べ50組の参加がありました。親子登園参加によって本園を志願する方がみられます。

オープンスペースは、予約制のもと、キッズルームを開放しました。0歳から2歳前までの乳幼児親子の参加者があり、子育て相談も行いました。

また、2024年度から早朝・延長預かり施設ソフィアでもオープンスペースを実施し、駅前預かり保育施設を公開し、知っていただく良い機会となりました。

行事名	対象	実施回数	参加状況 *（）は前年度
休日園開放「幼稚園であそぼう」	2歳児	4回	のべ109組（84組）
園開放	1歳～就園前	7回	294組（181組）
園庭開放	0歳～就園前	10回	のべ234組（160組）
親子登園	2歳児	27回	279組（319組）
オープンスペース	0～2歳前	8回	のべ53組（88組）
ソフィアオープンスペース	0～2歳前	2回	のべ10組

⑧ インスタグラムの起用

Instagram（Instagram）での園の情報発信を行いました。フォロワー数も少しずつ増え、新たなツールでより多くの方に情報を届けられるようになりました。

⑨ 施設・設備

探索道において、倒木の危険がある木を伐採しました。今後も、整備を重ねながら安全に遊べるよう管理していきます。

⑩ 防災頭巾の購入（全園児）

引き続き、全園児が防災頭巾を購入し、地震や火事、不審者侵入、園バス置き去りなどの様々な災害を想定した避難訓練を実施しました。

⑪ おひさま広場の開催

保護者と在園児に園庭を開放する「おひさま広場」を、降園後に年間で 13 回開催し、保護者同士が話をしたり、子どもの遊ぶ様子を見たりする良い機会となっています。

財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、319億9,681万5千円、支出総額は315億6,658万5千円となり(収支とも繰越支払資金を除く)、前年比では、収入は補助金収入の増加等により99億8,010万5千円増加し、支出は施設関係支出の増加等により94億1,546万6千円増加した。

事業活動収支は、事業活動収入計が134億8,648万6千円、事業活動支出計が96億5,736万5千円となり、基本金組入前当年度収支差額が38億2,912万1千円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は24億8,782万9千円となった。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より33億4,669万7千円増加し644億7,922万7千円となった。また基本金は、第1号の組入により12億9,233万9千円増加し、648億1,339万6千円となった。

財務上の重要な指標である事業活動収支差額比率の実績は28.4%であった。同系統(薬学部他複数学部)の大学法人の全国平均値(日本私立学校振興・共済事業団の発行する「今日の私学財政」より)は近年4～5%程度の水準であり、それと比較すると、財務的に安定した経営状況であると評価できる。引き続き、教育研究環境の充実・向上に十分留意しつつ、強固な財務基盤を維持出来るよう努めて行く。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

安東キャンパス2号館建設工事費 (53億1,600万円)
 安東キャンパス2号館建設工事設計業務 (1億2,430万円)
 安東キャンパスA棟・9号館西棟 LED化工事費(5,819万円)

今年度の寄付金収入17,653,112円の内訳は次のとおりである。

法人より 3 件 8,731,112 円
 個人より 50 件 8,922,000 円

資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年度 増減
学生生徒等納付金収入	8,009,300	8,253,155	8,683,232	8,563,386	8,630,302	66,916
手数料収入	93,279	90,273	84,734	99,026	98,479	△ 547
寄付金収入	16,747	18,249	71,773	18,485	17,653	△ 832
補助金収入	1,463,107	1,376,624	1,828,256	1,528,234	4,001,064	2,472,830
国庫補助金収入	814,260	749,210	1,169,883	870,022	3,341,273	2,471,251
地方公共団体補助金収入	648,847	624,714	655,873	657,812	659,391	1,579
学術研究振興資金収入	0	2,300	2,100	0	0	0
若手・女性研究者奨励金収入	0	400	400	400	400	0
資産売却収入	14,190,441	13,140,644	10,609,765	10,628,703	16,591,662	5,962,959
付随事業・収益事業収入	52,369	115,812	92,966	86,750	90,322	3,572
受取利息・配当金収入	530,782	548,136	615,239	266,714	352,513	85,799
雑収入	212,532	265,357	262,997	292,229	278,570	△ 13,659
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	1,293,718	1,269,517	1,168,126	1,187,442	1,285,119	97,677
その他の収入	955,517	3,044,023	2,668,020	713,035	4,444,702	3,731,667
資金収入調整勘定	△ 1,460,140	△ 1,567,962	△ 1,712,914	△ 1,367,294	△ 3,793,572	△ 2,426,278
小 計	25,357,652	26,553,828	24,372,194	22,016,710	31,996,815	9,980,105
前年度繰越支払資金	5,280,170	8,007,607	6,498,549	5,419,517	5,285,108	△ 134,409
収入の部合計	30,637,822	34,561,435	30,870,743	27,436,227	37,281,923	9,845,696

支出の部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年度 増減
人件費支出	4,807,897	5,062,535	5,047,655	5,156,810	5,200,391	43,581
教育研究経費支出	2,040,462	1,851,400	2,855,940	2,291,634	2,524,275	232,641
管理経費支出	384,700	355,735	484,465	429,182	524,571	95,389
借入金等利息支出	21,625	20,250	18,249	16,250	14,250	△ 2,000
借入金等返済支出	150,000	400,070	399,990	399,990	399,990	0
施設関係支出	464,796	2,943,130	5,925,054	1,692,639	5,414,382	3,721,743
設備関係支出	151,169	91,806	322,852	87,580	115,278	27,698
資産運用支出	14,650,384	17,468,053	10,194,066	12,213,613	17,231,753	5,018,140
その他の支出	47,095	56,390	253,082	82,210	239,410	157,200
資金支出調整勘定	△ 87,913	△ 186,483	△ 50,127	△ 218,789	△ 97,715	121,074
小 計	22,630,215	28,062,886	25,451,226	22,151,119	31,566,585	9,415,466
次年度繰越支払資金	8,007,607	6,498,549	5,419,517	5,285,108	5,715,338	430,230
支出の部合計	30,637,822	34,561,435	30,870,743	27,436,227	37,281,923	9,845,696

事業活動収支計算書の推移

(単位:千円)

科 目			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年度 増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,009,300	8,253,155	8,683,232	8,563,386	8,630,302	66,916
		手数料	93,279	90,273	84,734	99,026	98,479	△ 547
		寄付金	16,747	18,049	71,773	18,485	14,653	△ 3,832
		補助金	1,300,108	1,231,542	1,519,818	1,528,234	1,501,065	△ 27,169
		国庫補助金	666,797	604,128	861,445	870,022	841,274	△ 28,748
		地方公共団体補助金	633,311	624,714	655,873	657,812	659,391	1,579
		学術研究振興資金	0	2,300	2,100	0	0	0
		若手・女性研究者奨励金	0	400	400	400	400	0
		付随事業収入	52,369	115,812	92,966	86,750	90,322	3,572
		雑収入	255,520	279,270	269,566	306,410	284,323	△ 22,087
		教育活動収入計	9,727,323	9,988,101	10,722,089	10,602,291	10,619,143	16,852
	支事業の活動部	人件費	4,819,069	5,033,122	5,099,059	5,258,647	5,134,321	△ 124,326
		教育研究経費	3,296,367	3,032,206	4,171,825	3,605,020	3,895,352	290,332
		管理経費	427,886	395,256	529,792	469,556	566,029	96,473
		徴収不能額等	14	0	350	350	84	△ 266
		教育活動支出計	8,543,336	8,460,584	9,801,026	9,333,573	9,595,786	262,213
教育活動収支差額		1,183,987	1,527,517	921,063	1,268,718	1,023,357	△ 245,361	
教育活動外収支	収事業の活動部	受取利息・配当金	530,782	548,136	615,239	266,714	352,513	85,799
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	530,782	548,136	615,239	266,714	352,513	85,799
	支事業の活動部	借入金等利息	21,625	20,250	18,250	16,250	14,250	△ 2,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	21,625	20,250	18,250	16,250	14,250	△ 2,000
	教育活動外収支差額	509,157	527,886	596,989	250,464	338,263	87,799	
経常収支差額	1,693,144	2,055,403	1,518,052	1,519,182	1,361,620	△ 157,562		
特別収支	収事業の活動部	資産売却差額	99,677	35,032	62,010	24,400	26	△ 24,374
		その他の特別収入	167,583	148,117	321,636	2,128	2,514,804	2,512,676
		特別収入計	267,260	183,149	383,646	26,528	2,514,829	2,488,301
	支事業の活動部	資産処分差額	135,082	56,354	221,350	46,898	47,329	431
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	135,082	56,354	221,350	46,898	47,329	431
	特別収支差額	132,178	126,794	162,296	△ 20,370	2,467,501	2,487,871	
基本金組入前当年度収支差額			1,825,323	2,182,198	1,680,348	1,498,812	3,829,121	2,330,309
基本金組入額合計			△ 182,973	△ 411,946	△ 7,628,307	△ 3,786,669	△ 1,341,292	2,445,377
当年度収支差額			1,642,349	1,770,252	△ 5,947,959	△ 2,287,857	2,487,829	4,775,686
前年度繰越収支差額			△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 8,077,076	△ 2,071,249
基本金取崩額			619,513	129,104	2,266,653	216,608	48,952	△ 167,656
翌年度繰越収支差額			△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 8,077,076	△ 5,540,295	2,536,781

(参考)

事業活動収入計	10,525,365	10,719,386	11,720,974	10,895,533	13,486,486	2,590,953
事業活動支出計	8,700,042	8,537,188	10,040,626	9,396,721	9,657,365	260,644

貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部						前年度 増減
科 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
固定資産	48,567,763	48,028,505	52,740,138	55,601,527	56,013,176	411,649
有形固定資産	34,734,906	36,517,553	41,195,746	41,471,001	45,553,309	4,082,308
土地	8,986,872	9,158,839	9,682,917	10,083,423	10,085,902	2,479
建物	20,756,404	20,021,322	26,463,386	25,714,781	24,708,091	△ 1,006,690
その他の有形固定資産	4,991,630	7,337,392	5,049,443	5,672,797	10,759,316	5,086,519
特定資産	13,795,845	11,475,971	11,506,719	13,995,029	10,325,076	△ 3,669,953
その他の固定資産	37,013	34,980	37,673	135,497	134,791	△ 706
流動資産	8,289,985	10,721,881	7,052,415	5,531,003	8,466,051	2,935,048
現金預金	8,007,608	6,498,550	5,419,517	5,285,108	5,715,339	430,231
その他の流動資産	282,377	4,223,331	1,632,898	245,895	2,750,712	2,504,817
資産の部合計	56,857,748	58,750,387	59,792,553	61,132,530	64,479,227	3,346,697
負債の部						
固定負債	4,873,730	4,430,414	4,075,259	3,762,925	3,291,113	△ 471,812
長期借入金	3,849,930	3,449,940	3,049,950	2,649,960	2,249,970	△ 399,990
退職給与引当金	1,023,800	980,474	1,025,309	1,112,965	1,041,143	△ 71,822
流動負債	1,901,396	2,055,153	1,772,126	1,925,624	1,915,012	△ 10,612
短期借入金	400,070	399,990	399,990	399,990	399,990	0
前受金	1,293,718	1,269,517	1,168,126	1,187,442	1,285,119	97,677
その他の流動負債	207,608	385,646	204,010	338,192	229,903	△ 108,289
負債の部合計	6,775,126	6,485,567	5,847,385	5,688,549	5,206,125	△ 482,424
純資産の部						
基本金の部						
第1号基本金	49,268,460	52,143,090	57,358,996	58,838,057	64,130,396	5,292,339
第2号基本金	4,478,039	1,854,251	2,000,000	4,000,000	0	△ 4,000,000
第4号基本金	560,000	592,000	592,000	683,000	683,000	0
基本金の部合計	54,306,499	54,589,341	59,950,996	63,521,057	64,813,396	1,292,339
繰越収支差額の部						
翌年度繰越収支差額	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,828	△ 8,077,076	△ 5,540,295	2,536,781
純資産の部合計	50,082,622	52,264,820	53,945,168	55,443,981	59,273,102	3,829,121
負債及び純資産の部合計	56,857,748	58,750,387	59,792,553	61,132,530	64,479,227	3,346,697

貸借対照表の関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	88.1%	89.0%	90.2%	90.7%	91.9%
2	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.4%	98.1%	98.9%	99.4%	100.0%
3	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	88.4%	84.7%	90.9%	93.9%	89.5%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	14.6%	18.2%	11.8%	9.0%	13.1%
5	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	436.0%	521.7%	398.0%	287.2%	442.1%
6	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	619.0%	511.9%	463.9%	445.1%	444.7%
7	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	13.5%	12.4%	10.8%	10.3%	8.8%

事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	17.3%	20.4%	14.3%	13.8%	28.4%
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.1%	78.3%	76.6%	78.8%	78.7%
3	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	13.9%	11.5%	13.0%	14.0%	29.7%
4	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.0%	47.8%	45.0%	48.4%	46.8%
5	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	32.1%	28.8%	36.8%	33.2%	35.5%
6	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	1.7%	3.8%	65.1%	34.8%	9.9%
7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.2%	61.0%	58.7%	61.4%	59.5%

在学生数・教職員数の推移

区 分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
在学生数 (単位:名)					
大学院	26	23	29	35	29
大学	5,062	5,139	5,325	5,292	5,311
短期大学	294	299	272	240	193
高等学校	729	714	746	751	689
中学校	554	510	503	510	532
小学校	495	494	494	514	528
幼稚園	208	210	210	210	208
幼稚園安東園舎	210	207	208	206	210
計	7,578	7,596	7,787	7,758	7,700
教職員数 (単位:名)					
大学	596	602	593	595	577
短期大学	29	32	29	28	28
高等学校	79	86	91	82	82
中学校	57	57	61	58	57
小学校	46	50	46	47	46
幼稚園	26	31	30	29	28
幼稚園安東園舎	30	27	26	26	27
その他	4	3	3	3	3
計	867	888	879	868	848

財務の概要

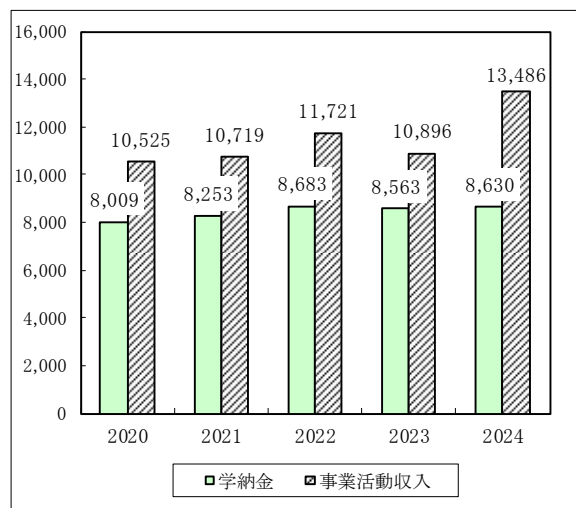
財務の概要

(5年間の財務 経年比較表)

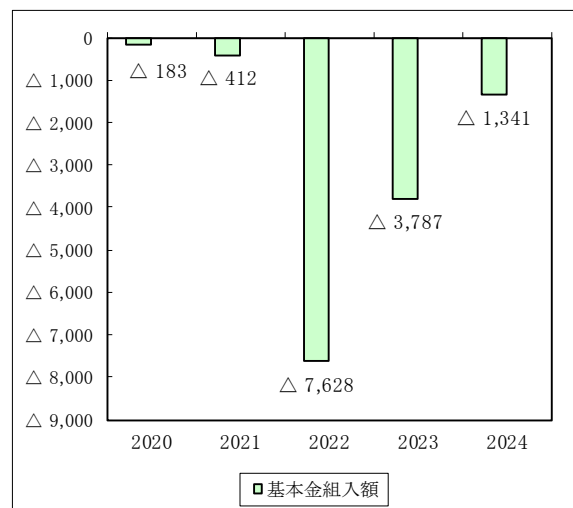
(単位：百万円)

項 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
①学生生徒等納付金	8,009	8,253	8,683	8,563	8,630
②事業活動収入	10,525	10,719	11,721	10,896	13,486
③経常収入	10,258	10,536	11,337	10,869	10,972
④基本金組入額	△ 183	△ 412	△ 7,628	△ 3,787	△ 1,341
⑤事業活動支出	8,700	8,537	10,041	9,397	9,657
⑥教育研究経費	3,296	3,032	4,172	3,605	3,895
⑦有形固定資産	34,735	36,518	41,196	41,471	45,553
⑧総 資 産	56,858	58,750	59,793	61,133	64,479

学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移



基本金組入額の推移



(%)

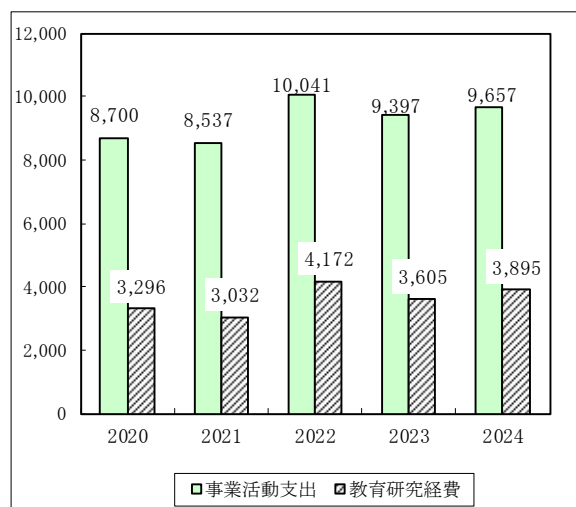
項 目	2020	2021	2022	2023	2024
学生生徒等納付金比率	78.1	78.3	76.6	78.8	78.7

(学生生徒等納付金÷経常収入)

(%)

項 目	2020	2021	2022	2023	2024
基本金組入率	1.7	3.8	65.1	34.8	9.9

事業活動支出及び教育研究経費の推移

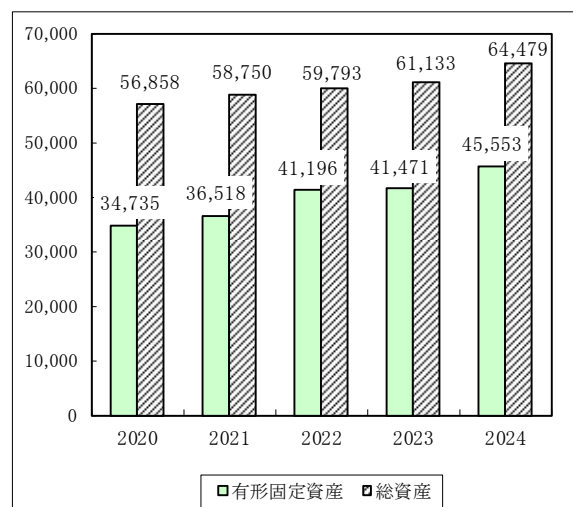


(%)

項 目	2020	2021	2022	2023	2024
事業活動支出比率	82.7	79.6	85.7	86.2	71.6
教育研究経費比率	32.1	28.8	36.8	33.2	35.5

(教育研究経費÷経常収入)

総資産及び有形固定資産の推移



(%)

項 目	2020	2021	2022	2023	2024
有形固定資産構成比率	61.1	62.2	68.9	67.8	70.6

学校法人安田学園

〒731-0153

広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1

Tel:082-878-6321